（一）　昭和30年8月19日　第1581号　（金曜日）　常磐毎日新聞　（昭和30年1月22日 第三種郵便物認可）　夕刊　（日曜、祭日　休刊）

常磐毎日

発行所
平市田町75
常磐毎日新聞社
電話1210番

夏家具かや一式
家具のデパート
あるが
平市銀座電223

草野で稲刈り始む
近く再び田植実施
注目集む東北初の二期作

異状な豊作天候に恵まれた石城地方一帯の農家では例年より十日も早く収獲の準備でテンテコ舞の忙しさにうれしい悲鳴を上げているが、草野駅前渡辺重蔵さんでは早くも浜三郡のトップを切つて水田（反収獲高約二俵一斗）稲刈を始めている、これは水稲の二期作をネラツタもので明日からは田植をして十一月中旬に第二回目の獲り入れにかゝるわけである、ネライは経済的にはまだ問題が残つているが食糧増産の意味から試験的に試みたもので、その成果はあらゆる方面から期待されている、これについて地方事務所農地改良課では経済的な収支計算面にはとかく疑問はあるが、草野で二期作が可能だとすれば東北地帯の稲作にとつては画期的驚異でありこれが今後とも続くとすれば食糧増産の上からも一般に推奨すべきであるが経済上技術的からも一般への普及性は問題があり、早急に普及するのは無理だろう語つており、まだ試作の域を出ていないが今後の改良によつては明るい見通しがもたれている。また三和村上永井渡谷信二さんでも二十日水稲の刈入れをすることになつており今月末までには郡内のトツプを切つて供出すると張切つている。

あす流燈花火大會
仕掛三、打上百五十發

平夏祭りの終尾を飾る「流燈花火大会」は明二十日午後七時から、平市鎌田地内夏井川河畔で開き夜空に七彩の美を競うことになつた。打上げ場所は鎌田橋下流地帯、見物席は鎌田橋下流の堤防から白土地内の堤防一帯であるが例年の人出から危険を防止するために鎌田橋は同日午後六時以後花火大会が終るまで通行止めとなる。打上げる花火は▽打上げ花火百五十発▽仕掛三個に▽流燈一千個が準備されており例年にない盛会が予想されている。

なお大会本部と警備のための平署臨時派出所は鎌田町金成国政さん宅前に設置される。

磐城史談会
磐城史談会では二十日午後二時から平一中で例会を開き役員改選を行つたのち、磐城史談五号を配布する。

史談の内容は磐城七浜（梅宮茂）、時代の捨石（永山徳一）、上越廃寺跡（岩越二郎）、金冠塚古墳（成田克俊）、京都にある平の史跡（鈴木光四郎）、上代の海岸地方の開拓（渡辺一雄）金光寺見学記（菱川弘）、磐城文献（菊地康雄）などである

九月末まで出漁認める
江名小船組合
合磯問題協議

合併問題で難行を極めている平市豊間合磯部落問題について江名町小舟組合＝組合長吉中源次郎氏＝ではこの程同部落民の磯稼についての組合役員会を開き次のような態度を決めた。

▽本年九月末日までは従来通り其の進出稼動を認める▽本年十月以後は「まぜ」採集は勿論其の他わかめ、あわびなどの採集は一切当組合地区進入を断るというもので、平市当局ではこの問題について十九日午後一時から委員会を開き、態度を協議している。

磐城で暴行未遂
騒がれて船に逃げ去る

十八日午前四時半ころ磐城市観音作無職渡辺耐子さん宅は同市辰己町地内小名浜港三千トン埠頭附近を散歩していたところ、突然暗がりから三十五、六才、身長五尺三寸ぐらい、小ぶとりでカーキ色の開襟シヤツに白ズボンをはいた男が現われ「おれについてこい」といやがる渡辺さんの腕をつかんで附近の軽飲食店助六」わきの空地につれ込み、引き倒したうえ、のどをしめて暴行しようとしたが驚いた渡辺さんが大声をあげて助けを求めたので男は「騒ぐなと」

人妻二人自殺計る

きのう平市内路上で二件の服毒自殺未遂事件があつた。

▽十八日午後零時四十分ころ平市古鍛冶町地内路上で内郷市御厩町無職遠田フミ子さん（三七）がプロバリン多量を飲んで自殺を図つたが、近くの漬花漬製薬店の人達に助けられ、市内竹林病院で手当をうけているが一命はとりとめる模様、原因については今のところ不明である。

▽同日午後一時ころ平市八幡小路地内でも路上に倒れて苦もんしている女があつた。裁判所職員の発見が早く手当の結果一命をとりとめた。この人は同市六軒門土工小見三郎さん（四〇）の妻ミヤ子さん（三〇）で夫婦のいざかいからアドルムを飲み自殺を図つたものらしい。

磐越線に轢死体

十八日午前七時三十分ころ石城郡川前大字川前字棚木地内磐越東線路上に五十才位男の轢死体があるのを川前駅員が発見平署に届出たが同署では早速検死に当つたが、身元不明で一見乞食と見られている。

千円スラる

東京都渋谷区初代町学生住吉和彦さん（三）は十八日午後三時三十分ごろ常磐線下り二三一列車に湯本駅から乗車しようとした際ズボンポケツトから現金一千円をスリ盗られたと平鉄道公安室に届出た。

富士製パンに賊

十八日午後一時ごろ平市新川町富士製パン店鈴木栄作さん方に賊が入り、玄関近くにおいてあつた現金二千円在中の手提金庫と生菓子五十個が盗み去られた。

日脳で死亡

去る十六日日本脳炎で隔離された好間村北好間椎木平一毛塚みどりさん（三）は十七日夜死亡した。

三和に赤痢

三和村渡戸字宿畑二十一合津徳男ちやん（四）は十八日疫痢で隔離された。

訂正　昨十八日附「号外」二段目平子正孝被告の記事中「懲役三月」とあるは「三年」の誤り、また同日付「本紙」被告氏名中三段目の近内幸男被告記事中「懲役三年予二年」とあるは「三月予二年」の誤りにつき許正します。

天気予報
（今晩）南の風晴明け方は曇り（明日）南よりの風晴時々曇遍くなつて一時俄雨がありましよう（海上）今晩はおだやか、明日は多少風波がありましよう。

解説
平事件第一審判決

は、騒じよう罪が成立せず、単なる傷害沙汰であつたという判決が下された、検察側の論告求刑は明らかに騒じよう罪であるとして確信をもつていたものだけに、山田裁判長の判決は社会的にも大きな反響があつたことは否めない、検察側は直ちに控訴する態度を明らかにしたが、願わば過去六カ年間の永い間二百十八回に及ぶ法廷斗争をくり返して争つて来た問題点（騒じよう罪）だけに検察側としては承服出来ないのは当然であろう。

逮捕二百三十余名、起訴百五十九名という大きな事件で、しかも百二名という大量の被告を一度に判決言渡しをしたのは裁判史上の新記録だと伝えられている。

この事件の起きた昭和廿四年という年は戦後混乱時代のクライマックスであつた、正月には共産党代議士が三十五名当選、六月十日には人民電車が走り、六月十五日には中共政権が誕生、同三十日が平事件、七月五日が下山事件、同十五日が三鷹事件と次いで八月十七日が松川事件等々の大事件が起きている。

加えて時の吉田内閣は大量の首切りを断行、こうした空気を刺激したかにみえた、その後も島根県益田署盗聖事件や、下関事件が続つ発して何れも騒乱罪で起訴されている。「平署不法占拠」は大衆たちが折から降つて来た雨をしのぐため、「雨やどりに過ぎない」と片づけた裁判所側の見解は了解に苦しむと目撃者が言つているように何かが未だ残つているような気がする。

一方全被告を全員有罪だと断じた検察側の主張、また全員無罪を強調する弁護団側の主張、そのいずれも何か納得し難いものが感ぜられる。構造物侵入、強迫、暴行、強盗などの被告の逮法行為まで煩瑣りして無罪を主張している被告側にも何か割り切れないものがあるように感ぜられる。

結論からみて山田裁判長の「総論」の中に「認められない」「認め難い」という言葉が非常に多く使われていたことは、この事件が果して騒じよう罪が適用するか否かを認定するのに非常に難かしかつた事を物語る証左とも言えよう。いずれにせよこの事件は今後最高裁判所まで論争が進むことは明かであるので、第一審で当否を論ずるのは早計であるが、すくなくとも一審の結果からは「すつきりとした国民の納得いく判決」という感じは薬直にうけとれない、何ものかが残されているような気がする。

▽当時の平市署員

▽当時の事件目撃者

▽解決の交渉に当つた公安委員

▽被告の各人及び各被告の家族

▽今後被告らを相手として仕事をしてゆく日産事務官公庁の人たち

などの色々この事件に関係のある各層の人たちの心境に立返つて、静かにこのまゝの判決で結論すけられたとしたら、何かしら割切れないものが感じられるような気がする。

果して「雨やどり」か
平事件第一審判決から

罪を強調する弁護団側の主張、そのいずれも何か納得し難いものが感ぜられる。構造物侵入、強迫、暴行、強盗などの被告の逮法行為まで煩瑣りして無罪を主張している被告側にも何か割

優歩保護指定医
労災保険指定医
内科・外科
産婦人科
放射線科
松尾病院
平市大町五（電一五四番）
院長　松尾正平
副院長　原徳之
医員　松本浩
レントゲン技手　杉田昭二

菓銘　七段昌取中　平凡

父　志賀予之松儀　永らく病気療養中のところ薬石効なく八月十七日午前十時三十分永眠致しました
茲に生前の御厚誼を深謝し謹んでお通知申上げます
追而葬送の儀は来る八月二十日午後一時より自宅にて仏式により告別式を相営みます
昭和三十年八月十九日
平市四軒町十七番地
喪主　志賀昭美
親戚代表　志賀栄
〃　大泉信雄
友人代表　佐藤三平
〃　猪狩四郎
〃　強口唯七郎
〃　木正昌二郎

平けいりん
場外車券売場
福島市・郡山市
若松市・平市大町
小雨決行
発走11時
8月前節
20（土）　21（日）　22（月）
主催　平市

収監組も即日保釈
崩れた検察陣の主張
平事件

えんえん六年二カ月に亘つてはげしい法廷斗争が続けられて来た平事件も、昨日午後四時三十五分首謀者日野定利被告に対する判決を最後に容共派百二名（欠席鈴木光雄被告）の判決を終つたが、当初問題とされていた騒じよう罪は根本的に覆えされて、単なる傷害沙汰と同様な個々の暴行強迫事件に過ぎないと結論され、有罪が廿三名、無罪が七十八名という世紀的な判決が下され、有罪廿三名のうち実刑を受けたものは

▽強盗、建造物侵入、銃砲等違反に問われて懲役三年を判決された平子正孝（三五）被告▽公務執行妨害、建造物侵入罪に問われ懲役八年二月を判決された利川儀吾（三九）被告▽暴行罪に問われて懲役一年二月を言渡された金龍珠（三九）被告の三名だけで他は全部二年間の執行猶予だつた、実刑の前記三名は判決終了後直ちに待機していた検察官の手で、平拘置所に収監されたが、竹沢、岡林弁護人からの保釈手続きで、平子、金両被告は一万円、利川は五千円の保釈金をつみ同日午後六時三十分ごろ収監二時間にして出所した。

胸打つた無罪宣告
被告団
今後の対策を協議

裁判終了後「被告待合室」に集つた被告達はそれぞれ気勢をあげたのち散会したが、平子など三名の保釈のため残つた竹沢弁護人鈴木磐夫被告団長は今後のことに付内郷市で協議することになつたがこの件については発表の段階でないと語つている、しかし当然検事控訴があるものと見て、その対策が検討されるものと見られている。

鈴木被告団長の話

「騒じよう罪が崩れたと云うことは我々が従来主張していたことが通つたわけで、六年間なめて来た生活上のつらさは、このような判決をもつてもつぐなわれるものでない。被告団長として個人的に見て、私を中心として苦労した人達が一人一人「無罪」と言渡されて帰廷するのを見たとき何かジーンとくるものがあつた、今後のことは弁護人と打合せの上決める。

また事件を挑発した警察側が処罰されないで一方的処罰は不当である。処罰されるのはむしろ警察側である主張、これは被告全員の気持である、社会に的罪人扱にされた騒じよう罪が崩れたことは喜ばしい限りであるほとんど無報しゆうで献身的に尽してくれた弁護人に感謝の言葉がない」と結んでいる。

平子被告談

またこの日内郷失対現場から出廷した平子被告は判決後の心境を次のように語つている。

「我々はどんな処置を受けようとも無罪を確心する、弁護人と相談して控訴するが第二審では絶対無罪ですよ」

全員無罪まで斗う
金、村上被告談

首謀者組で無罪を言渡された金明福、村上俊雄の両氏は、「勿論無罪は始めから信じていましたが、私たちだけが無罪になつたからいいものではない、全員が無罪になるよう今後も斗うつもりです」と語つていた。

当然の判決
高萩邦男県議談

デモンストレーションによる団交にやゝ行き過ぎがあつたのではないかとも思われるが、裁判所側で当然の判決を行つたの一語につきるデモによつて交渉を有利にすると云うのは合法的なことであつて何らとがめられるものではない。

判例に違反する判決
高橋主任検事談

「判決の焦点は騒乱罪の成否にかゝつていた、裁判所がこれを否定したのは意外であつた、裁判官は当時の社会情勢を理解出来ないためと思う、同時にこの判決は明らかに最高裁の判例に違反しておりどうしても納得出来ない、仙台高検に帰り上司とも相談、充分判決理由を検討した上控訴する方針である、あくまで確信はある」

確信持つて判決
山田裁判長談

「私としては誠意をもつて裁判をしたつもりである。人によつては意外な判決と思う向もあるかも知れないが、私としては公正な判決と考い確信をもつて言渡した。しかしいずれにせよこれでどうやら重荷がおりた形である」

早速夫に報せる
喜び語る坂本被告

女被告中で唯一人有罪となり懲役三月（執行猶予二年）を言渡された坂本津奈子（三五）被告は判決の感想を次のように語つた

「三月とは意外だ、私は廿七年に結婚したが、間もなく平事件の被告だと言うので、夫は世間ていを恥じて私を残し北海道に転勤してしまつた、長女富子（三）の生れたとき一寸帰つて来たが、無罪になつたら北海道に来い、有罪だつたら別れようと言残して去つたまゝである。執行猶予となつたので早速夫に手紙を出して迎えに来て貰うつもりです。

今晩のラジオ

NHK（第一）

6、00、シンプン　ジヤン　ヴアルジヤン物語
6、25、オテナの塔
6、45、ゆり子の日記
7、30、歌の展覧会
8、00、演芸独演会
8、40、日本の町
9、15、放送劇（越中おはら節）
10、15、おかめ八目
10、40、納涼お国めぐり

ラジオ福島

6、05、消える孤島
6、15、風の中の子供
6、40、世界童話旅行
7、10、中合アワー
7、30、エンゼルタイム
8、00、聚人歌合戦
8、50、競輪アワー
9、00、明色歌留ゲーム
9、30、リズムの部屋
9、45、キツコーツルアワー
10、05、名作アルバム
10、25、夜の希望音楽会
11、05、浪曲名調アルバム

今晩の映画

●平　館　夜の部　六時四五分
お俊捕物帳　地獄の掟ぶん
（二十三日まで）（電四六六）
●ひかり座　夜の部　七時七分
不良少女モニカ　死闘の丘
（廿二日まで）（電一三三八）
●聚楽館　夜の部　七時
赤いカンナの花咲けば　ひとり寝る夜の小夏
（二十三日まで）（電四七〇）
●世界館　夜の部　七時十六分
リオの情熱　娘の人生案内
（二十三日まで）（電五八）
●民　劇　夜の部　六時三五分
大平原　黒いじゆうたん
（二十日まで）（電二二二）
●東映劇場　夜の部　七時十五分
牡丹燈籠　母水仙
（二十三日まで）（電六五）

浦島太郎　サッパリ
平市南町四

小名漁協専務に三浦氏

小名浜漁業協同組合専務理事はかねてから人選中だつたが、此程小名浜出身元小名浜信用組合主事三浦五六氏（五五）が決り、十九日就任した。

原水爆禁止大会報告会
磐城市で開く

磐城市一牛和祭実行委員会では、左記日程場所で原水爆禁止世界大会報告会を催す。

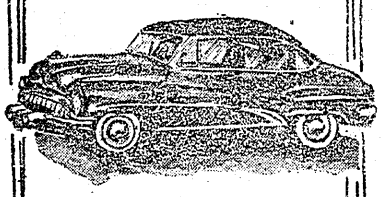
▽二十六日小名浜一小校講堂▽二十七日江名公民館▽二十八日泉公民館▽二十九日鹿島小校▽三十日玉川公民館▽三十一日渡辺小校

五千円すられる

茨城県多賀郡関本村高萩駅操車掛佐藤哲さん（三一）は十七日午前九時ごろ常磐線上り二三二列車内でズボンポケットから現金五千四百円相当を盗られ平鉄道公安室に届出た。

危い線路上の遊び

十五日午後四時四十五分ごろ常磐線上り二九四列車が浪江―桃内間を進行中、同地内滑水堀鉄橋にさしかゝつた際、三人の子供が遊んでいるのを発見急ブレーキをかけ事故の一歩手前で危く停車した。近くの農家の子供達で危い線路上の遊びに警告を発している。

貸切の御用命は　電話640番

尼子タクシー

売宅地
▼旧城跡・五十坪・七十坪
▼駅迄二分・好適地
▼格安に至急譲り度し
平市才組小路踏切際色川材木店　TEL361・161

20日→21日（2日間）
ナイトショウ
上映時間十時三十分
入場料　三十円
五本の指
名匠ジョセフ・レ・マンキウイツツの快作
ジエイムス・メイスン　主演
聚楽館

20日→21日【二日間】
ナイトショウ
豪華空前の花形スター総出演で贈る
喜劇超大作!!
のんき裁判
大河内伝次郎　堺駿二　笠置シヅ子　森繁久彌　柳家金語楼
上映時間十時三十分　料金三十円
世界館
TEL58

ローケツ染のお誘い
趣味と実益をかねた（ローケツ染）を手軽に楽しみながら作る会に御参加下さい！
◆時　八月廿一日廿二日廿三日の三日間九時半より三時半迄
◆会場　いわき民報ホール
◆講師　鈴木智香子先生（芸大卒、文化服装学院の先生）
　西一路先生（芸大卒、磐女高図画教師）
　若松光一郎先生（芸大卒、磐高図画教師）
　中西若松両先生はローケツ染の下絵（デツサン）の指導
　鈴木先生はローケツ全般（染料染方）について
◎講習内容　実習を主にしてローケツ染の全般
　主な製作品　ネクタイ・テーブルセンター・手提・其他自由作品
　材料　必用な材料は会場で販売致します（約二百円染料と白ロウは各自会場でお求め下さい）
　会　費　三百円（三日間）
　申込所　プール・トア手工芸研究所
　平市田町並木通り五四（電呼一、七六九番）
　自宅（電話八二六番）

暑中御伺い申上げます
衣料品のデパート
鈴藤
代表取締役　鈴木藤太郎
平市四丁目
電93・1956・1567

昭和30年夏　暑中御見舞申上げます　1955年夏

鮫川せき土地改良区
理事長　古川伝一
主事　高木保

石城郡町村長
遠野町長　荒川久馬
田人村長　逸見万吉
好間村長　鈴木栄一
小川町長　吉田万吉
三和村長　佐藤清司
四倉町長　吉田寿三郎
川前村長　新妻長太

石城地方市町村協議会
会長　平市長　諸橋久太郎
副会長　常磐市長　矢吹荘司
副会長　好間村長　鈴木栄一

暑中御伺い申上げます
衣料品のデパート
鈴藤
代表取締役　鈴木藤太郎
平市四丁目
電93・1956・1567

常磐地方総合開発期成同盟会
会長　大竹作摩
副会長　平市長　諸橋久太郎
〃　磐城市長　立花秀吉
常磐炭砿　青山栄

石城郡町村議長
遠野町議長　生田目忠平
田人村議長　緑川芳文
好間村議長　塩沢軍太郎
小川町議長　草野米弥
三和村議長　佐藤一郎
四倉町議長　佐藤広治
川前村議長　川津佐々木

好間商業協同組合
理事長　森永太郎
専務　飛田清吉
常務　稲葉八寿三